

宇宙図 2018 における主な改定内容

- 最下部「宇宙は、この宇宙ひとつだけなのか？」パート（新設）
インフレーション理論についての具体的な記述を増やし、新たにマルチバースについても触れました。
- 最下部「人間は宇宙の彼方に何を見るのか？」パート（新設）
宇宙図の意味をいまいちど振り返り、その位置づけについての理解を深めるための説明を追加しました。
- 重力波の検出成功に伴い、関係箇所を更新
2015年にブラックホール同士の衝突に伴う重力波が初めて検出されたことや、2017年に連星中性子星の衝突に伴う重力波が初めて検出されたことを受けて、関連する記述を追加しました。
- 太陽系外惑星探査の進捗に伴い、関係箇所を更新（文章、数字）
2013年以降の太陽系外惑星研究の発展に伴い、関連する記述を更新しました。
- 元素周期表を一新（由来情報を追加、ニホニウムを追加）
元素の由来についての情報を新たに追加するとともに、日本の研究グループによって発見されたニホニウムを追加しました。
- 最新の観測/シミュレーション画像を採用（ALMA、太陽系内天体等々）
アルマ望遠鏡など新しい観測装置および宇宙探査機によって得られた最新の画像に置き換えました。
- 図の形を決める宇宙論パラメータを最新の値に更新
中央のメインビジュアルの形を決めている宇宙論パラメータを最新のものとしました。